

研究代表者 所属・職：看護学部・教授

氏 名：長江 美代子

研究課題名：性暴力被害-PTSD-再被害の悪循環を切るトラウマインフォームド・システム構築

## 研究の概要

### 【目的】

本研究では、性暴力被害→心的外傷後ストレス障害（以下 PTSD）→生活・社会不適応→再被害の悪循環を断ち切るために、トラウマインフォームド・システム（Trauma-Informed System：トラウマ（心の傷）の理解に基づく体制）を構築する。性犯罪・性暴力被害者のための病院拠点型ワンストップ支援センター（以下 OSC）と連携したトラウマ・PTSD 拠点を開設し、OSC の医療・司法・行政・民間ワンストップ・システムに以下の機能を加える：①科学的根拠に基づく PTSD 予防・治療・回復ケアの提供②トラウマインフォームド・ケア実践のための研修と人材開発③性暴力被害者のトラウマ・PTSD 予防・治療・回復に関するデータ蓄積と分析基盤。この拡大システムにより全ての性暴力被害者にアウトリーチし、PTSD 予防・治療・回復を確実にすることで被害後の悪循環を断ち切ることを目指す。トラウマ・PTSD 拠点と性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」を活動拠点とし、研究・教育・実践活動の一環として利用者から得られるデータを活かしシステムの効果を実証的に評価・修正していく。

\*SAMHSHA (2014). Trauma-Informed Care in Behavioral Health Services. Treatment Improvement Protocol (TIP) Series.

### 【研究方法/実施計画】

病院拠点型 OSC を複数設置してより多くの性暴力被害者を見逃さないと同時に、被害者の PTSD 発症を予防し、治療し、社会復帰を確実に支援できるトラウマ・PTSD 拠点を設置する。以下の①～④を実施する。暴力被害後の PTSD 予

防・治療・回復を混合研究法デザインにより縦断的にデータ収集、定期的に分析しシステムを実施・評価・修正していく。

1. OSC なごみと連携したトラウマ・PTSD ケア拠点を設置し、性暴力被害者に PTSD 予防・治療・回復ケアを確実に提供できるシステムの基礎づくりを行う。
2. 拠点を中心にトラウマインフォームド・ケア(TIC: Trauma-Informed Care：トラウマ理解に基づくケア)実践の 4 つの R（1 Realize 理解, 2 Recognize 認識, 3 Respond 対応, 4 Resist re-traumatization 1.2.3 による再トラウマ体験防止）に沿った研修と人材開発をすすめる。
3. 性暴力被害者のトラウマ・PTSD 予防・治療・回復に関するデータ蓄積と分析、および性暴力の身体的・精神的・社会的・法的・経済的影響（アウトカム指標）を可視化するためのツール開発と基盤づくりを行う。
4. 定期的にデータ分析しトラウマインフォームド・システムのモデル化と評価を行う。

## 達成状況・成果内容

### ① トラウマ・PTSD 拠点の設置と予防・治療・回復ケア提供システムの基礎づくり

- 地域内 PTSD 診療状況が把握でき、トラウマ拠点設置準備委員会が具体的に構成された。

トラウマ・PTSD 拠点準備チームのメンバー候補 8 名とリーダーは決まっている。拠点では、相談、治療、専門家の育成、トラウマインフォームド・ケアの普及活動の拠点となる。

② TIC 実践のための 4R (理解・認識・対応・再  
トラウマ体験防止) に沿った研修と人材開発

- SANE 養成講座 ((全 8 日間、64 時間) 日本福祉大学の科目履修プログラムを 30 名の看護師対象に実施した。
- CARE (大人と子どもの絆を深めるプログラム) を日本福祉大学看護実践研究センターの公開講座として実施した (1~2 回/年、30 名/回) 施設単位での依頼にも対応し、5 回実施した。
- 2 名の臨床心理士がなごみで性暴力被害者対応の研修を開始し、PTSD 暴露療法 (PE) のスーパービジョンを経てなごみ利用者に実施できるようになった。
- ISVA (Independent Sexual Violence Adviser) という UK 認定の性暴力に関する実践的なオンライン支援者研修の導入を、当事者団体代表を含む全国的なメンバー 5 名 (東京、福岡、名古屋) で実施した (2021 年 9 月 26 日)。

③ トラウマ・PTSD 予防・治療・回復に関するデータ蓄積と分析、性暴力の身体的、精神的、社会的、経済的影響を可視化するための基盤づくり

身体的・精神的影響は医療カルテやトラウマ・PTSD のケアや治療面接の既存データ項目を基本に検討するとともに、ウェアラブルデバイスにより被害者の PTSD を可視化する試みを開始した。5 年間の「なごみ」のデータ分析では、性暴力被害とフラッシュバック、リストカット、希死念慮、自殺との関連が示された。社会経済的影響については、センサスなど既存の社会的経済的データとなごみデータを合わせて推計することで、経済ロスを示す計画である。

- ④ 性教育教材を作成した。(「はなれるいのち」、「宿るいのち、逝くいのち」)